

2020年01月06日

眼科に、過去に通院・入院された患者さんへ

(臨床研究に関する情報)

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、研究用に保管された検体及び通常の診療で得られる検査結果などの診療情報を用いて行います。このような研究は、厚生労働省・文部科学省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」(平成26年文部科学省・厚生労働省告示第3号)の規定により、研究内容の情報を公開し、研究対象となる方等が拒否できる機会を保障することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせ、拒否される場合などがありましたら、以下の連絡先・相談窓口へご照会ください。研究への検体及び診療情報の利用を拒否された場合も不利益を受けることはありません。また、この研究については、香川大学医学部倫理委員会の審議にもとづく医学部長の許可を得ています。

[研究課題名] 網膜静脈分枝閉塞症の黄斑浮腫に対する Triamcinolone acetonide テノン嚢下注射併用の治療成績を調べる後ろ向き研究

[研究機関の長] 香川大学医学部長

[研究責任者名・所属] 香川大学医学部附属病院 眼科

逢坂 理恵 (おおさか りえ)

[研究の目的]

網膜静脈分枝閉塞症は、糖尿病網膜症に次いで多い網膜循環障害の疾患です。現在、抗 VEGF (血管内皮増殖因子) 薬硝子体注射により視力改善を期待できるようになりましたが、繰り返しの治療が必要になっています。そこで、ステロイド (トリアムシノロンアセトニド) テノン嚢下注射を一緒に行うことで、抗 VEGF 薬の投与回数を減らすことができるか調査します。この研究により、網膜静脈分枝閉塞症の治療向上に役立てられると考えています。

[研究の方法]

○対象となる患者さん

2013年6月1日から2017年12月31日に香川大学医学部附属病院を受診し、網膜静脈分枝閉塞症と診断され、抗 VEGF 薬(商品名:ルセンティス)硝子体注射治療を行い、1年以上経過観察できた方

○利用する検体・診療情報

検体: なし

診療情報: 診断名、年齢、性別、既往歴、視力などの視機能、OCT 画像所見などの画像データ

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

研究に利用する患者さんの個人情報に関しては、お名前、住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

[連絡先・相談窓口]

香川県木田郡三木町池戸 1750-1

香川大学医学部附属病院眼科 担当医師 逢坂理恵

電話 087-898-5111 FAX 087-891-2212